

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

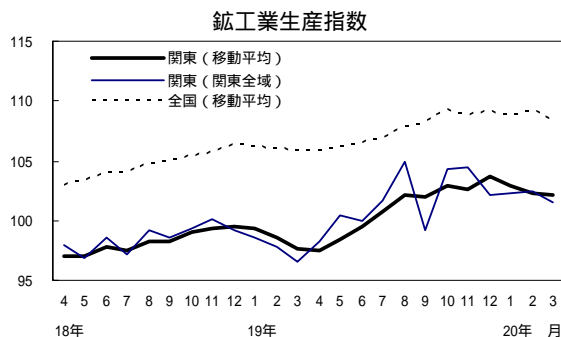
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 20 年 2 月）	今回（平成 20 年 5 月）	
鉱工業生産	緩やかに増加	おおむね横ばい	
住宅建設	大幅に減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。（関東全域）

一般機械は、半導体製造装置が不調であったため、2 四半期連続で減少している。化学は一部工場の火災事故の影響等から、スチレンモノマーやフェノールなどの樹脂を中心に、減少している。輸送機械は、乗用車に使用する駆動伝導・操縦装置部品が低調であったため、4 四半期ぶりに減少している。情報通信機械は、携帯電話の新規モデルが好調であったものの、固定通信装置が前期の反動で振るわなかったため、7 四半期ぶりに減少している。電気機械は、引き続き半導体 I C 測定装置の海外需要が低調であることやセパレート型エアコンが低調であったことから、減少している。



- (備考) 1. 季節調整値。関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。
 3. 関東は12年基準、全国は17年基準。

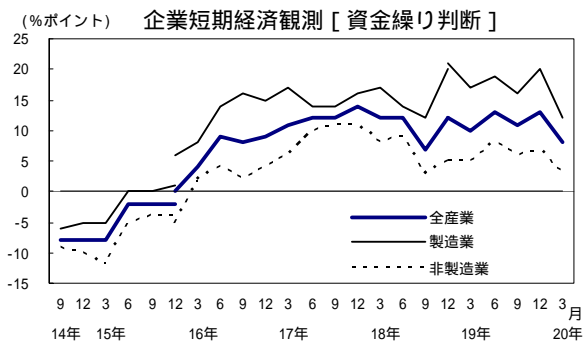
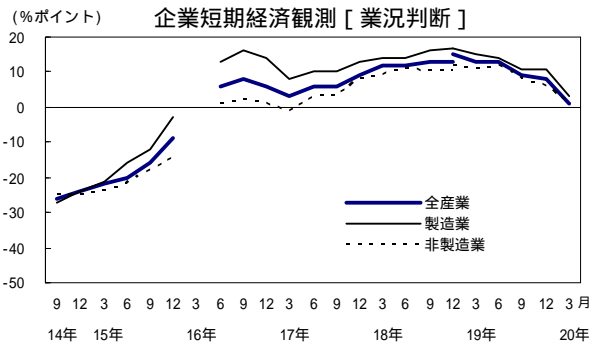
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	13.8	0.4	4.8	4.4	1.0
化学	13.7	1.0	2.6	2.2	2.5
輸送機械	11.3	5.6	5.1	3.2	6.1
情報通信機械	8.6	3.1	1.4	3.1	36.8
電気機械	7.9	3.6	4.2	4.5	0.6
鉱工業	100.0	1.6	1.4	1.3	3.2

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 1~3月期は速報値。
 3. 1~3月期の化学の生産、出荷は、1月、2月確報値の平均より算出。在庫は、2月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

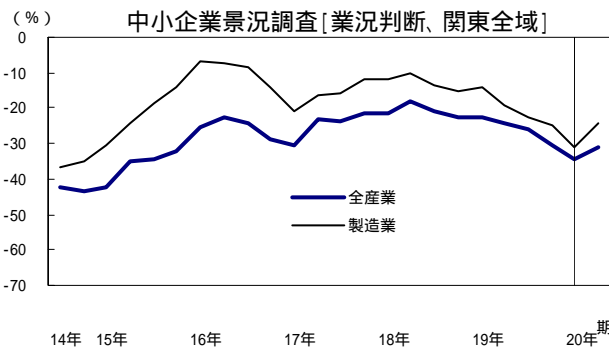
旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「環境に対する意識の高まりからか問い合わせや受注量は増加しているが、原材料費の高騰が利益を圧迫している(その他サービス業[廃棄物処理])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

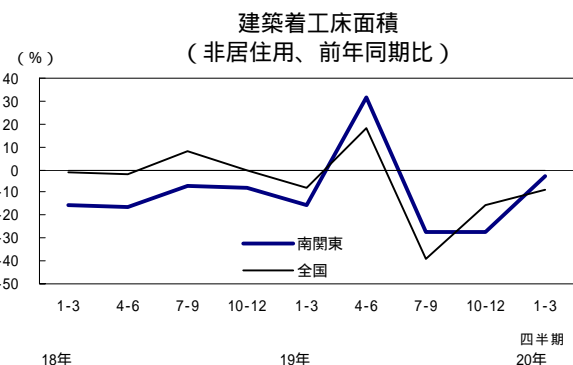
(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績見込み	20年度計画
全産業	18.0(4.2)	1.7
製造業	26.0(5.2)	0.8
非製造業	7.5(2.1)	7.1

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。



(4) 南関東

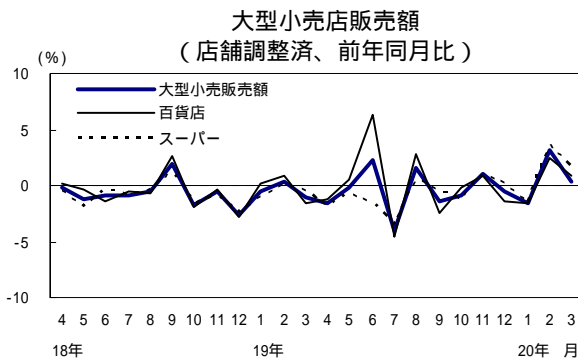
2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売やクリアランスセール等により、婦人靴（ブーツ）やハンドバック等の身の回り品に動きがみられたが、婦人服が振るわず、前年を下回った。2月は、気温の低下により紳士冬物衣料に動きがあり、また、節分やバレンタイン需要により飲食料品が好調であったことから、前年を上回った。3月は、暖かい日が多く、紳士物のカジュアルウェア等に動きが見られたものの、衣料品全般および身の回り品が低調で、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の4月の売上高は前年同月比0.7%減となっている。スーパーは、果物が振るわなかったが、野菜は好調であり、全体としては前年を上回った。

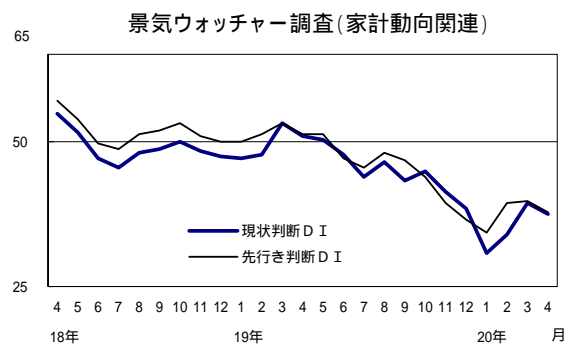
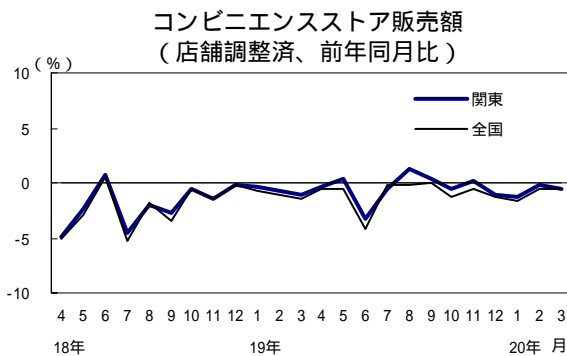
景気ウォッチャー調査（4月）〔家計動向関連（現状）〕
 「特に個人消費が最も敏感に出るレストランの来客数と売上が減っている（都市型ホテル）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	（前年同期比、%）			
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
大型小売店	0.2	1.5	0.2	0.4
百貨店	2.0	1.8	0.3	0.2
スーパー	1.5	1.2	0.0	1.0
コンビニ	1.1	0.3	0.5	0.7
景気ウォッチャー	49.6	44.5	41.5	34.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。20年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。

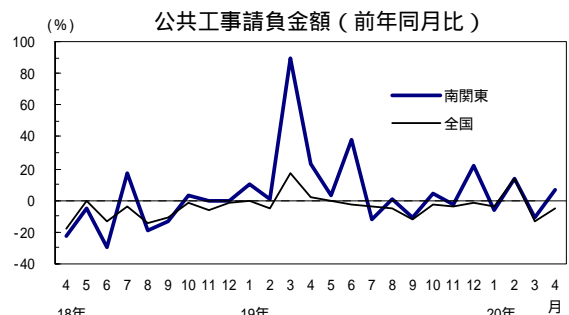
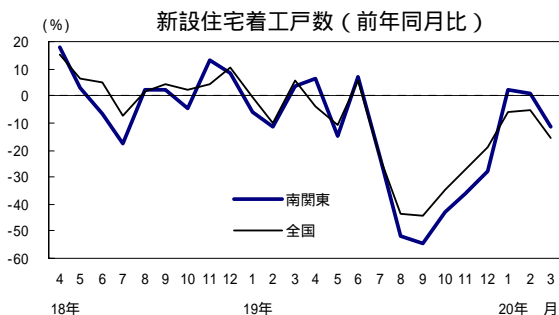
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

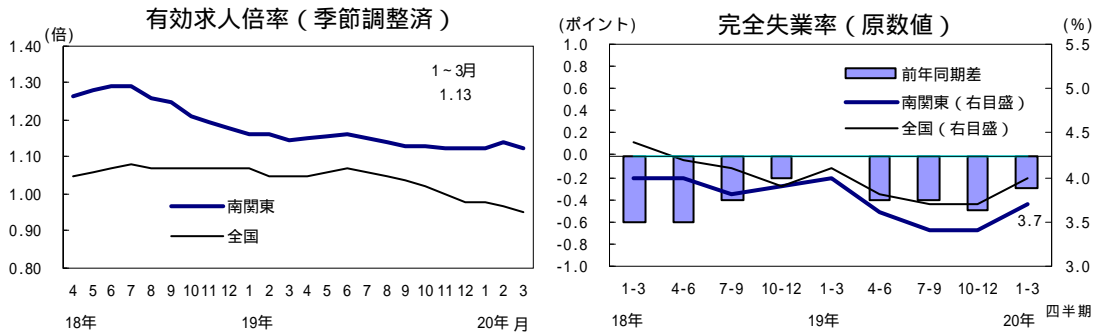
給与が前年を上回ったものの、分譲が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準である。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



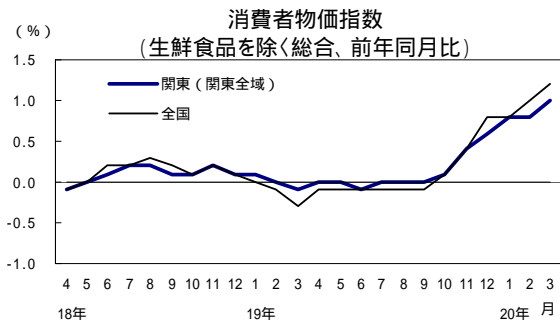
景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

「一部金融機関から統合による大量受注があるが、全般的には新入社員も入り、派遣社員が一時的に不要になっている(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいであり、負債総額は増加している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月	20年4月
倒産件数	982	1,015	1,044	1,031	351
(前年比)	9.4	14.7	7.0	2.8	4.2
負債総額	4,999	9,022	5,018	5,860	4,127
(前年比)	35.1	273.7	3.3	13.3	34.7



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・鉄鋼や建設資材が値上がりするなか建設費が値上がりして投資利回りが悪くなったため、客の中では事業計画を取りやめるケースが多くなった(建設業)。

<先行き>

- ・ヒット商品、春物商戦が無く、だらだらと初夏物に移行しそうである。特に軽衣料になり客単価は低迷し、低価格でも購買意欲は低く、数字を取るのが難しい(衣料品専門店)。

